

はじめに

本フォント及びドキュメントファイルは Windows 上での動作を目的に作成されております。他の環境でのご利用は保障できません。またご利用になった場合、不具合で不利益が発生したとしても、いかなる保障もいたしませんのでご注意ください。修正可能な不具合につきましては、連絡いただければ善処する所存です。個人環境で、十分なテストが行われているとは言えませんので不具合が発生する可能性があります。期待した表示が行われない場合はご了承ください。

このファイルは、同梱の悉曇フォントを利用しております。フォント導入前に読まれますと、一部の文字が化けたり空白で表示される可能性がありますのでご注意ください。

悉曇フォントについて

TrueTypeFont ApDevaSiddham.ttf は、unicode のデーヴァナーガリー領域(U+0900-097F)に悉曇文字を配置し、デーヴァナーガリー入力と同じ方法で悉曇によるサンスクリット入力を可能にしたフォントです。また、朱鷺書房刊・児玉義隆氏著「梵字必携」付録の梵字般若心経手本をまねた毛筆手書き風梵字グリフを unicode 私有領域(外字エリア)に内蔵しております。

Devanagari 方式で入力可能な文字は、悉曇十八章で纏められている第一章から第十七章までの全てと第十八章の一部になります。第十八章は所謂その他全てとなっており、全容を把握することができません。第十七章に含まれる最多重字は子音を6字含みます。体文33字を6重にする組み合わせは 33^6 で12億通りになり、文字合成プログラムでも組まないと無理です。もちろん古代インド人のバラモン賢者もそんなに無茶はしていません。また、未だ TrueTypeFont の1ファイルに組み込めるグリフ数は 65535らしいです。と、言い訳をしておいて判った分だけ組み込みました。梵字必携は1重字しか載っておりませんので、ネットの「まんどろーかのサンスクリット・ページ」さんの文法概説を参考にさせていただきました。梵字表(4)に挙げられている全重字と般若心経(「梵字般若心経」+貝葉本)に必要な重字を収めました。

Devanagari 入力で表示される文字は、質より量を優先したため美しくありません。また、FontForge(フォント作成に使用したソフト)の作者をして、インド系文字フォントくらいしか使用されていないという「文脈依存の置換」と「文脈連鎖依存の置換」なんて機能を駆使しました。もちろん、ろくな説明は見つかりません。他の DevanagariFont をダウンロードして解析しました。試行錯誤を繰り返して、プログラムを習い始めた頃の気分を味わいながら、どうにか目的の文字を表示できるようになりました。フォント作ってるんだよね。プログラム組んでるんじゃないよね。(愚痴にしか…) まあ、Devanagari 入力対応とそのグリフ作成に掛かった時間は10日ほどですが。

何はともあれ、重字が美しくないと思っておりますので、時間を掛けて修正する予定です。血反吐が垂れそうな構文解析に比べて、パーツ化して組み立てただけの重字グリフは短時間で大量生産しました。そのうち直します。ちなみに、おまけみたいに私有領域に組み込まれている般若心経用毛筆手書き風悉曇グリフは5年掛かりです。気が向いた暇な時間に作っていたので…。

動作環境

unicode フォントですので Windows2000 以降の対応になります。それ以外は対応できません。

Macintosh の場合は何らかの作業が必要ですよね？

Linux 系ならそのまま使えたような気がします。私は Ubuntu くらいしか使えません。

TRON は使えるのかも。

フォントの組み込み方

一般常識ですね。(終)

フォント管理ソフトで組み込むなり、Windows の Fonts フォルダにドロップするなりご自由にどうぞ。この辺りマイクロソフトもやる気が無いのか、未だ同名ファイルを事前に消さないと組み込めない仕様らしいのですが。Windows10 なら変わる…と良いな。

悉曇文字の入力方法

通常は、デーヴァナーガリー入力可能な環境では無いと思われるので、環境設定が必要です。もちろん、既に環境が整っていらっしゃる方々がいらっしゃるの当然です。インド関係の方や、そちらの専門家、及びヒンディ系の学生さん、熱心な仏教・密教関連の方々は読み飛ばしてください。残った人は検索へ。まず、IME がサンスクリット語・ヒンディー語に対応していないと入力できません。ちなみに、サンスクリットもヒンディーも「語」を付けるのは妥当ではありません。マイクロソフトに文句言ってください(日本語仕様)。どちらも最初から言語ナンデスヨ。

MS-IME なら言語と地域の設定で対応可能です。GoogleIME はヒンディ版あったような。ATOK はさすがに知りません。ちなみにインドのキーボードは、日本語キーボードの仮名表示みたいに、キートップにデーヴァナーガリーが刻印されているようです。で、キートップにデーヴァナーガリーが刻印されていない日本や英語圏のキーボードをご利用の皆様は、ユーザー補助のスクリーンキーボードを使用されますと入力が楽になります。インド系キーボードの表示を覚えていて、タッチタイプな方には必要ありません。ちなみにスクリーンキーボードは、表示フォントを変更可能ですので、驚愕の悉曇キーボードと化すことが可能です。変更しないとデーヴァナーガリー表示なので覚えるまで大変ですが。悉曇キーボードに慣れるまで使用する人がいるのか、それが問題です。ちなみに私はもう覚えました。デーヴァナーガリーが読めて、キー入力できるのに意味はさっぱり解からないのですが。

使用可能な文字

デーヴァナーガリー入力では、摩多12字・別摩多4字・体文33字が直接入力できます。重字の

「𑀓」は直接入力できないので【𑀓 𑀓𑀓 𑀓𑀓𑀓】と3文字入力することになります。2番目の「へ」みたいな文字は、体文から母音を外し子音化する記号で「D」キーに割り当てられています。

サンスクリットの体文はそのままですと[a]の母音付きで、他の13の母音記号を付加することで発音が変化します。ちなみに母音が16摩多あるのに、フォントでは14種しか用意されていませ

ん。𑀓[]と𑀓[]の2摩多は母音変化として使用された例が見つからないようです。

𑀓[kā]に 𑀓[ā]を付加すると𑀓[kā]になります。同様に残り12母音が付加でき、計14種の文字が作られます。重字も同様に13母音記号により変化しそれぞれ14種類の文字になります。この体文と摩多による表記一覧が「文字一覧」ファイルの表に記されていますので、必要であれば確認してください。さらに全ての文字に涅槃点(visarga) 𑀓と空点(anusvāra) 𑀓が付加できます。現在使用可能な重字は悉曇十八章の分類順に同ファイルに記されています。

最後に

この ApDevaSiddham (フォント名はファイル名と同じ) は、FontForge を Windows 環境で使用し作成されました。その作者と協力者及び、「unofficial fontforge-cygwin」の作者さんに感謝します。ちなみに Ubuntu が 2011 年版で最新版に更新できず、fontforge-20150118 で作成したこのフォントを読ませると即座にアボートします。更新したい・・・。

また、参考にした「梵字必携」の出版社や著者の方の許可は頂いておりません。クレームが発生した場合は配布物から関連データを削除いたします。

何が起るか判らないので、フォントファイルや作成したサンスクリット文章の配布・公開等は使用される方の判断に任せます。こっそり使うのは自由です。

参考文献及び HP

朱鷺書房刊・児玉義隆氏著「梵字必携」
「まんどろーかのサンスクリット・ページ」
「貝葉に見る般若心経の秘密」
「ぷらっとさんぽ」平成の『般若心経』-摩訶般若波羅密多心経
「e 国宝」梵本心経および尊勝陀羅尼
「大正新脩大藏經テキストデータベース」
「CBETA 中華電子佛典協會」
「Seven Mile Beach File」メモ 361
「ta meta ta phonetika」
その他 Devanagari Font 公開 HP、仏教・密教系 HP

以上

配布元 「電腦亜空間」 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/ajari/>

T.Nakagawa